

令和7年12月2日（火）掲載
神奈川新聞社提供（複製禁止）

海外レポート @米国

9月、ニューヨークで世界最大級の気候変動イベント「クライメートウィークNYC」が開催された。国連総会期に世界の都市・企業・大学等が集う国際的な議論の場で、今年のイベント数は最多であった。

横浜市はこの期間に初の公式イベントを開催し、日米の地方政府、金融機関、大学、企業に加え、国際機関等約160人と都市の気候対策や国際連携の進め方について議論を深めた。



イベントでの横浜市
内企業のPRの様子

当日は米国気候関連技術企業7社が日本・海外の企業・投資家22社に事業技術紹介を行い、米国からの日本連携への期待の高まりを感じた。横浜市内企業のSUN METALON（保土ケ谷区）も登壇し、投資家から注目を集めた。

各種セッションでも市の先進的な取り組みを発信。基調講演では、ジョンズ・ホプキンス大学ライシャワー東アジア研究所のケント・カルダー教授から、市がアジアで展開する気候変動対策や都市間連携について高く評価された。

市は11月末に開催したアジア・スマートシティ会議で、アジア版循環型都市宣言の第1号署名都市となった。市米州事務所では「GREEN×EXPO 2027」に向け、これらアジアでの取り組みを北米での都市間連携と市内企業の海外展開に一層つなげていきたい。（横浜市米州事務所副所長・西川勝裕）